

平成 30 年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

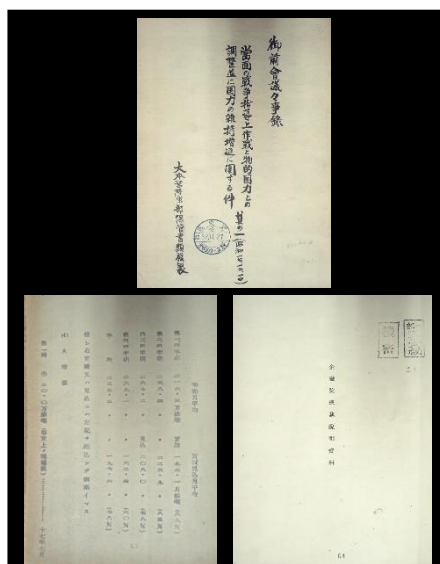
《 <sup>すずき ていいち</sup> 鈴木 貞一 1888～1989 年 》

—千葉県出身の陸軍中将—



陸軍省新聞班パンフレット (登録番号：中央-軍事行政その他-607)

鈴木貞一中将は、明治 43 年陸軍士官学校を卒業(22 期)し、歩兵第 18 連隊などで勤務した後、陸軍大学校を大正 6 年に卒業(29 期)しました。その後、8 年 1 月から 10 月まで大蔵省、14 年 12 月まで参謀本部支那班、作戦課等での勤務を経て、久留米の歩兵第 48 連隊大隊長となります。大正 15 年 12 月から昭和 2 年 5 月にかけて中国へ出張した後、帰国した鈴木は、参謀本部作戦課勤務となり、政治家などとも交流します。6 年 8 月には、陸軍省軍務局支那班長となり、後の満州事変に対応します。8 年 8 月には新聞班長となり 12 月大佐に進級、軍の考えを普及・宣伝します。この史料には、国防というものを広く啓蒙するため陸軍省新聞班が発行したパンフレットが綴られており、その内の 1 冊である『国防の本義と其強化の提唱』では、「たかひは創造の父、文化の母である。」という文言が冒頭に記されています。



御前会議議事録 (登録番号：中央-戦争指導重要国策文書-1075)

その後、鈴木は、昭和 9 年 3 月陸大教官、10 年 5 月内閣調査局調査官、11 年 8 月には満州の歩兵第 14 連隊長を歴任、12 年 11 月少将に進級し京都の第 16 師団司令部付となります。13 年 4 月には、牡丹江駐在の第 3 軍参謀長、12 月興亜院政務部長、15 年 8 月中将に進級、12 月に興亜院総務長官心得となります。16 年 4 月予備役に編入され第 2 次近衛内閣の企画院総裁・国務大臣に任ぜられます。鈴木は第 3 次近衛、東条内閣時にも同院総裁として留任、主に物動の観点から早期戦争終結を主張します。この史料は、17 年 12 月、政府と統帥部が特に物動について議論した御前会議の議事録であり、ガダルカナル戦前後の逼迫した状況が読み取れます。その後、鈴木は、18 年 10 月企画院廃止に伴い貴族院議員となり、内閣顧問、大日本産業報国会会長を務めます。戦後は戦犯として収監されましたが、30 年仮釈放されます。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課  
専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)  
外線：03-3260-3011  
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>